



No.4 もっと知ってほしい 子猫のこと ② 予防編



「猫が飼い主に知ってほしいと思っていること」No.4②は、「子猫」の病気予防について、飼いさんにもっと知っておいてほしいことを紹介します。子猫のうちから動物病院には定期的に通院し、健康診断を受けましょう。ほかにも、子猫を飼い始めたときの環境の整え方などについて紹介した「子猫の医食住」は、アニマル・メディア社のホームページ <http://www.animalmedia.co.jp/> から無料でダウンロードできます。

Lesson 1 子猫のうちに動物病院でしておきたいことチェック

※最低でも半年に1回は動物病院に行きましょう
※下記は一般的な成長の程度とケア実施年齢です。その子によって最適な時期を、かかりつけ獣医師に相談しましょう

猫の体の発達

2~3週齢：
歩けるようになる
3~4週齢：
乳歯が生えてくる
自分で排泄できるようになる

4~6週齢：
耳が聴こえるようになる

雌：5カ月齢頃 雄：8カ月齢頃
発情が始まる

6カ月齢頃：
永久歯へ生え変わる



1歳齢：
体の成長がほぼ完成する。
成猫用フードに切り替える

生後2カ月 6カ月 1歳
健康診断を受ける間隔はかかりつけ獣医師に相談しましょう（最低、半年に1回）

動物病院ですること

2カ月齢：
3種混合ワクチン**接種1回目

3カ月齢：
3種混合ワクチン**接種2回目

6カ月齢頃まで：不妊・去勢手術
(実施時期についてはかかりつけ獣医師に相談してください)
ウイルス検査

2回目接種の1年後：
3種混合ワクチン**追加接種

寄生虫の予防開始*（猫回虫、猫のフィラリア症、ノミ・マダニなど）
3~9週齢：2週間ごと
それ以降~6カ月齢まで：毎月駆虫薬を投与する

※薬剤によって投与できる最低年齢が異なります。かかりつけ獣医師に相談しましょう
※飼育環境などによっては、3種混合以外のワクチン接種が必要な場合もあります

滴下式駆虫薬を塗布する場所（▼）

後ろからみたところ

横からみたところ



1歳齢になるまで：
検便（寄生虫検査）は2~4回行う

※検便は偽陰性（本当は寄生虫がいるのに、検査でないと判定されること）となることもある検査です。猫から寄生虫が感染するリスクの高い、高齢者や幼児など抵抗力の弱い人がいる家庭ではとくに、しっかり予防薬を投与して、検査も複数回実施することが大切です



子猫によくみられる寄生虫の一種、猫回虫
写真提供：みずほ動物病院

※実際の薬剤の使用に当たっては、かならず添付文書を確認してください

Lesson 2

健康診断で行う検査

子猫のときに、その子の正常な値を調べておくことで、体調が悪くなったとき、病気の早期診断などに役立ちます。健康診断は定期的に受けましょう。また、わからないこと、不安に思うことはかかりつけ獣医師に遠慮せず相談しましょう。

検査の種類

- 身体検査
- 血液検査
- 尿検査
- 検便（糞便検査）
- ウイルス検査



Lesson 3

猫のかんたん健康手帳

実施した日付（年/月/日）などを記入しておきましょう。

ワクチン接種	1回目 (生後2カ月齢以上)	2回目 (1回目の1カ月後)	3回目 (2回目の1年後)	4回目以降の接種間隔については、かかりつけ獣医師に確認しましょう		
	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目
種類：	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /
接種部位：	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /
種類：	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /
接種部位：	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /
種類：	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /
接種部位：	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /
寄生虫予防	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
種類：	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /
種類：	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /
健康診断	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /

Memo
